

糸島プロジェクト 2018 年度

～女性の働き方を考える～



目次

- 1. プロジェクトについて**
- 2. 一年の流れ**
- 3. インタビュー**
- 4. お世話になった糸島市役所の方々**
- 5. 相生祭の写真**
- 6. アルバム**
- 7. プロジェクトを終えての感想**

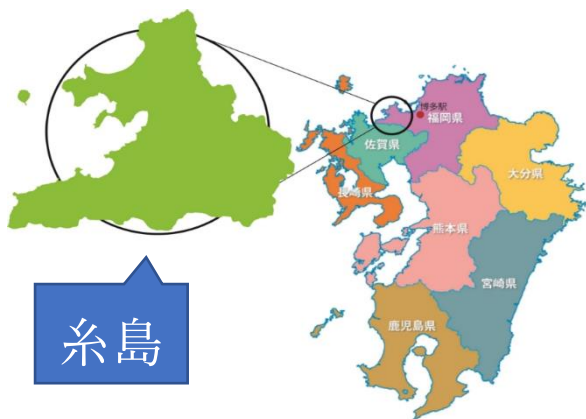


1. 「糸島プロジェクト」について

「糸島プロジェクト」は学生が福岡県糸島市で暮らす人や働く人に直接インタビューすることで女性の多様なはたらき方を調査・研究します。そしてそこで生じる課題や解決策を考えながら社会における女性又は自分自身の人生形成（生き方）における気付きや考え方をもち、自らの進むべき道を見つけ出す人になることを目的としています。平成30年度のミッションとしては以下の3つが主に挙げられました。

- ◆糸島で働く人を通じて「働くこと」「糸島の魅力（人、自然、歴史）」を知り学ぶ。
- ◆活動を通して学んだことを形に残す
- ◆活動の取り組みはチームで思いを一つにして、自分たちで決めたゴールに向かって進んでいける組織作りを行う（チームビルディングの構築）

糸島は島に思われがちですが福岡県福岡市のすぐ隣にあり、佐賀県との県境です。そして福岡空港から電車で一本。40分という速さで到着します。アクセスの良さは糸島が移住したい町 No.1 である大きな理由の一つとして挙げられます。またアクセス面だけでなく糸島には山、海、平野があるので豊富な食材が手に入ります。これも糸島の大きな魅力であります。



2. 1 年の流れ ～2018 年度～

5月

2018 年度「糸島プロジェクト」参加メンバーを募集

6月

参加メンバーを決定

↳プロジェクトの1年間の流れを確認

↳同時期に Facebook を始動



8月

糸島 夏の訪問 (9月7日～10日)

↳働いている人に直接会ってインタビュー

11月

文化祭「相生祭」で糸島ブース出展 (11月3日～4日)

↳糸島市、特に産直市場福ふくの里で売られている商品を中心に販売

2月

糸島 冬の訪問 (2月17日～20日)

3月

学内プロジェクト報告会 (3月1日)

↳1年間プロジェクトを通して学んだことを発表

1年間の活動の報告冊子作製



3. インタビュー

柚木 マスミさん（惣菜畑がんこ）

柚木さんは私たち糸島プロジェクトの初期からご協力いただいて、今年もお世話になりました。夏の訪問ではインタビューをさせていただき、冬の訪問では柚木さんのお家で夕食会を開かせていただきました。夕食会の準備をするにあたり、広い厨房を使わせていただいた上にお手伝いもしていただきました。いつも本当にありがとうございます。

柚木さんにインタビューさせていただくと、毎年私たちの中に残る言葉はやはり「**動けば変わる**」と「**No.1 より Only1**」です。私はこの糸島プロジェクトに参加したことで動けば変わるということはどういうことなのかとてもよくわかりました。自分の意思をしっかりとって動くことで一年前の自分より成長したと実感できます。

柚木さんはとても人脈がある方で、糸島に来ると横のつながりをととても感じます。人のつながりが大事ということを再確認しました。糸島に来ると「おかえり」と仰ってくださるのでまた糸島に帰りしたいと思います。



吉川 直子さん (TABl cafe)



吉川さんのお仕事は、お客様の行きたいところを聞いて一緒に旅行につき、ガイドをし、その旅行で“来た実感”を体験させること。その国や、建物の豆知識はもちろん、たとえば広場や何もないところでも、歴史的背景を、旅行の前日まで徹夜同然で調べるそうです。そんな吉川さん、実は歴史が苦手だそうです。プロを目指す自分が磨かれるとおっしゃっていました。ストイックに不足した所を突き詰める仕事への姿勢はとても素敵でした。就職はCAさんを目指していた吉川さん。しかし、上手いかず、なぜこの職種にこだわっていたのか目的を再確認したところ、違う職種でもいい！と思うようになり、旅行代理店に勤めることになりました。「いつでもやり直しはきく！」このお言葉に感動しました。「職種」を目標に夢を叶えようとするのも大切だけど、どんな仕事をしたいのか、好きじゃないと続けられないということを考えることも忘れてはならないと感じました。

阪井 麻紀さん (アロマの工房 香の宮)



香の宮は「アロマで虫除けを作れないか？」ということから始まったそうで手作り教室はお友達の一言がきっかけだったそうです。市販の虫除けは医薬品だろうと医薬部外品であろうと、安全性を疑う成分が入っている。環境にも悪い、自分の子供には使いたくない。それなら「自分で作ってしまおう」と思ったそうです。阪井さんの「行動力」は凄まじいです。自分だったら、失敗した時の事を考え、「不安と怖さ」で、動けません。だからこそ自分と対照的な阪井さんのお話はとても刺激を受けました。

【担当 西澤】

小津 智一さん（株式会社 oz カンパニー）

oz カンパニーさんは福岡を中心に企業内保育、病院内保育をされています。小津さんがこのお仕事をされるようになったきっかけは自らが子育てを経験する中で日本が子育てしにくい社会だと実感し、企業の中に保育園があれば人々の笑顔が広がると考えたからだそうです。私はこのお話を聞き、小さなことでも誰かの笑顔につながるようなことをしようと思いました。



山上 翼・明奈さんご夫婦（Bakery and cafe tubasa）

夫婦2人でお店を営んでおり、店主の翼さんがパンを作り、明奈さんがケーキを作っています。インタビューで「このパン屋さんは1つの箱でこの場所さえあれば地元の人たちと交流できる空間が作れる」とおっしゃっていました。このお話を聞きお店の在り方は一つではないと改めて気づきました。



【担当：森島】

桑田 秀一郎さん (Blue Roof)



古民家を改装して造られてあり、スミージーやアクセサリーなどを販売しています。桑田さんは中学二年生の時に「社長になりたい」と思い立ち現在のお店を経営されています。また出身地である糸島で糸島の魅力を多くの人に伝えたいという思いでお店を始められたそうです。

『自分がやりたいと思っていることをやらない方が損』『自分を着飾らず、ありのままにいく』などほかにもたくさんのお言葉をいただきました。私はリスクを考え行動を起こす前にあきらめてしまったり他人によく見せようと着飾ったりと桑田さんとは反対の考えを持っていました。しかし今回インタビューをさせていただいて行動を起こすことの大切さ、自分らしくいることの重要性などを学びました。

野見山 昌子さん (ラスティックバーン)



「RUSTIC BARN」は小さな小屋から人と人のつながりがきっかけで何か素敵なものが生まれますようにという願いを込めて名付けられたそうです。昌子さんはイタリアに行って福岡に戻った時、糸島には海外に負けないくらい良いところがあると感じ現在のカフェをオープンしました。そんな昌子さん

からは『人生に無駄なことはない』『自分の知らないところに行き、自分を見つめ直す』などのお言葉をいただきました。人生において無駄なことは1つもない。このことを頭に入れておいて今後の自分の人生を決めていきたいと思います。

【担当：山下】

中村 拓真・宏子さんご夫妻 （Soufu - 爽風 - ）

爽風さんは糸島の食材を使ったドレッシングを販売されています。文化祭でも販売させていただきました。インタビューをさせていただいて印象に残ったのは、「**学生の時は人とつながっておくこと・その時身につけたことは本当に無駄にならない**」です。残りの学生生活をいかに充実させることが出来るかとても参考になりました。



内田 富士子さん（風唄窯）

内田さんは風唄窯（ふうたがま）・糸島クラフトフェス実行委員会・ライターとたくさんのお仕事をされています。「**新しいことをするのは勇気がいるしストレスもかかるけど、絶対後々自分のためになる**」という言葉がまさにこれからの私たちにぴったりの言葉だと思いました。今後何かにチャレンジする時思い出して頑張りたいです。



【担当：佐藤】

佐藤 倫子さん（ママトコラボ）

地方都市での暮らし方、働き方のお話をいただきました。糸島在住で子育て期の女性のインタビュー調査のお話で、『出産の前と後では「働き方」への考え方の変化がある。』『子育ての経験を得て「生産者」の視点を得、より良い仕事ができる可能性がある。』『地元の仕事をする事で、地元へ愛着がわく。』『自分自身がまちづくりに対して能動的になる。』など、学生の私たちにはまだわからない「母親」としての意見を直接聞けて刺激になりました。



札本 真希さん（糸島市役所）

公務員として、糸島で暮らして「しあわせ」と思う市民を増やしたいと仰っていたのがとても印象に残っています。私自身将来公務員の道も考えているので、札本さんが仰っていた『地元をよく知ること。』『他地域に出て、多くの人と関わりを持つこと。』これらの事を学生のうちに積極的に取り組んでいきたいと思います。



【担当：深澤】

高田 史代さん（糸島みるくぷらんと 管理部総務課長）



糸島みるくぷらんとは、糸島市の酪農家から来た生乳を牛乳やヨーグルトなどに加工して販売している会社です。仕事において大事にしていることを伺うと、「**広報の仕事で酪農家さんたちの思いを伝えること**」と仰っていました。またそれは楽しくて、知ってもらえることも嬉しいと仰っていて、自信を持って販

売できている、仕事にやりがいを見出せていると感じました。初めはパートから入社したという高田さん。出産のため一度は退職したそうですが、その仕事ぶりから会社からまた働かないかと言われ、子育てをしながら正社員となりました。これを聞き、私も“好きなことを仕事にする”ことも大事だけれど、何か一生懸命にやってみて“仕事が好きになる”こともあることを再確認しました。

松浪 由香さん（フルーレ）



フルーレは、もともと母の喫茶店だったところを使った小さなケーキ屋さんです。松浪さんは現在幼い二児を持つ母で、旦那さんとお店を経営しています。そんな松浪さんに、学生のうちにしておいた方がよいことを伺うと、「**色んなアルバイトをして、色んな働き方を知ると良い**」と仰っていました。それにより、**その世界を知っている人に会える**とお聞きし、今回のプロジェクトでも色んな考え方の方たちのお話を聞き、実感していたので納得しました。また、就職したらその職業しか

できないため、実際に見ていないものは大きく想像することしかできません。個人店のアルバイトもいいけれど、大きな会社のアルバイトをしてみても良いとお聞きしたのは意外でしたが、確かにそうだと感じ興味が湧きました。今回色んな人にインタビューをしてみて、私も、人に何か関心を持ってもらえたり、良い影響を与えられたりする人になりたいと感じました。 【担当：吉原】

宮本 奈房さん（糸島パッションフルーツ工房 La' Puni）



宮本さんは栄養士の資格を持っています。初めは保育園栄養士として働いていたそうです。ですが旅行先でおいしいスムージーに出会い、実家でフルーツを育てているということもあり、それを使ってお店を開くことはできないかと考え、今の La'Puni を始められたそうです。

一番印象に残っていることは、お客様にスムージーに使われた食材の栄養素を答えることができたり、リピーターのお客様に " これが飲みたかった！ " と言われることが喜びだと仰っていたことです。栄養素の説明が出来るのは栄養士ならではのなと思いました！また、説得力があるため、リピーターも増えるのかなと感じました。

牧園 和香子さん（DOREMI クラブピアノ教室・ギャラリー押し花館四季）



今回お話を伺って、とても印象に残ったことは、『デメリットをいかにメリットに変えるか』という言葉です。自分が劣等感の塊にならないこと、自分が選び、与えられた環境でいかに花を咲かせることができ、楽しめるのが大事だと

いうことを教えていただきました。『いやなことを見つけるのではなく、良い事を見つける』この言葉を聞いて、今までは嫌だなと考えることが多かったのですが、良い事をたくさん見つけていけるようにしたいと思いました。牧園さんはとても素敵の方で、少しの時間でしたが牧園さんの魅力に引き込まれました！私たちのことを娘と呼んでくださったのが嬉しかったです！私達も第二の母ができました！

【担当：太田】

大堂良太・美幸さんご夫婦（ゲストハウス糸結）



大堂さんは現在 2 棟の学生寮とゲストハウス糸結を経営されています。このお仕事を始められる前は、東京で働かれていて「学生寮をやりたい」という思いから糸島へ移住したそうです。**学生のうちに、自主的に動くことや、旅行をすると良い！**と仰って

いたので、実践したいと思いました。そして「**死ぬ気でやれよ、死なないから**」という言葉がとても印象に残っています。私も目標に向かって、自分に厳しく死ぬ気で取り組んでいこうと思いました。

清家 麻妃さん（カフェ西洋館）



180 年前に建てられた民家を改装してつくられたカフェ西洋館さんは和と洋が調和したとても居心地の良いお店でした。清家さんのお話にはたくさんの印象に残る言葉がありましたが、なかでも最も印象に残った言葉が「**プラスな面もマイナスな面も自分。思考の癖や性格など自分についてよく知る事が大切**」という言葉です。この言葉は、これからの就職活動や仕事をしていく上だけでなく、生きていく上でも重要なと感じ、とても勉強になりました。

【担当：小池】

☆ここで紹介させていただいた方以外にも原田 昭仁さん（福ふくの里）・阿部 邦宏さん（牡蠣の阿部 飛龍丸）・吉住 万葉さん（二丈米産直センター）・火山 友喜さん（漁師）などたくさんの糸島の方々にお世話になりました。本当にありがとうございました！

4. お世話になった糸島市役所の方々

今回糸島プロジェクトにおいて、インタビュー先のアポイントメント取りや訪問先への事前事後の挨拶・移動手段の手配・訪問先への付き添い・学生のサポートなどたくさんのお手伝いをいただきました。また文化祭の地域物産展ブースにも福岡から足を運んでいただきました。皆さまお忙しい中、私たち学生の「働くとは何か」・「自分はどんな働き方をしたいか」・「チームで同じ目標に向かって進むこと（チームビルディングの構築）」がいかに大切かを一緒に行動していただいたことでしっかりと考えさせられました。この一年間私たちを温かく見守っていただきありがとうございました。

糸島市役所 企画部 秘書広報課 **ブランド推進係**

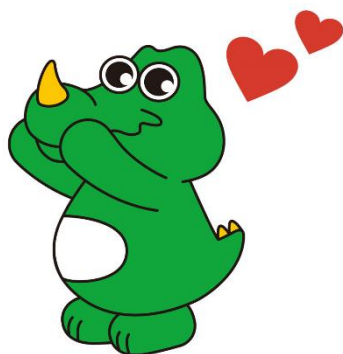
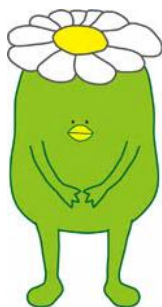
- ・係 長 藤森 弘敏（ふじもり ひろとし）さん
- ・主任主査 長谷川 奈美（はせがわ なみ）さん
- ・主 査 岡 祐輔（おか ゆうすけ）さん



◆**ブランド推進係**とは

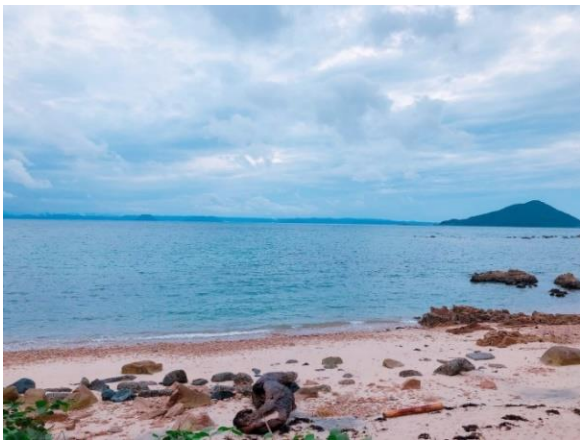
主に糸島市の魅力（食、交通、自然、歴史、人）を市外へ売り込み、糸島の付加価値（イメージ）を上げていくお仕事。具体的に説明すると市外の方へ糸島の魅力を知ってもらい「糸島に来てもらう」「糸島のものを買ってもらう」「糸島に住んでももらう」ことに繋げていくお仕事。糸島をPRすることで交流人口や定住人口などが増え、地域や事業者が元気になり強いては町が元気になることを目指しています。

5. 相生祭の写真 (2018.11.3~4)

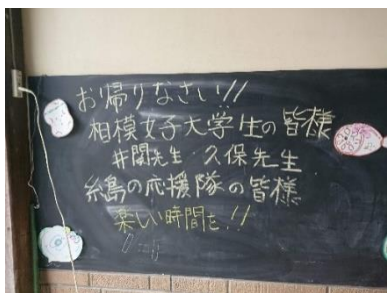


6. アルバム【夏の訪問】(2018.9.7~10)





【冬の訪問】(2019.2.17~20)





7. プロジェクトを終えての感想

健康栄養学科3年 小池由佳

昨年から参加をして、働く事、生きる事について学びました。様々な方と出会い、ご縁をいただきました。この事を大切にしていきたいと考えます。ありがとうございました。



健康栄養学科3年 太田綾乃

このプロジェクトを通して、たくさんの方と関わり、自分の将来への視野を広げることが出来ました。糸島で得たことを将来にも活かすことが出来たら良いと思います。



食物栄養学科2年 深澤多絵

去年と引き続き2回目の参加ということで、更に今年も沢山のご縁を頂きました。ありがとうございました。今後の就職、子育て、生き方に役立てていきたいです！



食物栄養学科2年 吉原なる花

色々な考え方の人生の先輩と関わる事ができ、日常生活においても考え方が広がりました。心に響く言葉もたくさん聞けたので、周りにも発信していきたいです。



日本語日本文学科2年 佐藤花菜

糸島プロジェクトで得たものはとても多く、何よりも行動力がついたと実感しました。この経験をどう活かしているかが今後の目標です！



社会マネジメント学科1年 山下紗弥

このプロジェクトに参加して新たに得たものが多くありまして、自分の人生設計を明確にすることができました。今回関わっていただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。



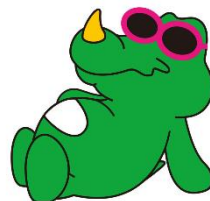
メディア情報学科1年 森島羽音

何事も経験することや継続することの大切さを改めて感じることができました。また糸島の方と関わり、人との繋がりを大事にしていきたいと思いました。



メディア情報学科1年 西澤唯

変わりたい。と思ってプロジェクトに参加しました。たくさんさんの刺激をもらい初めての行動力が糸島プロジェクトで良かったと思います。素敵な時間をありがとうございました！





糸島プロジェクト公式 Facebook

[相模女子大学 糸島プロジェクト]

糸島プロジェクト 2018

2018.6～2019.3

[相模女子大学 連携教育推進課]